

広報

No.133

くらみ

昭和59年7月15日

発行・編集 国見町企画課

おもな内容

地域ぐるみで 青少年を健やかに…	2～3
クリーン・アップ作戦	4
ふるさとの文化財	5
おしらせ	6～7
公民館だより	8～9
わだい	10

'84

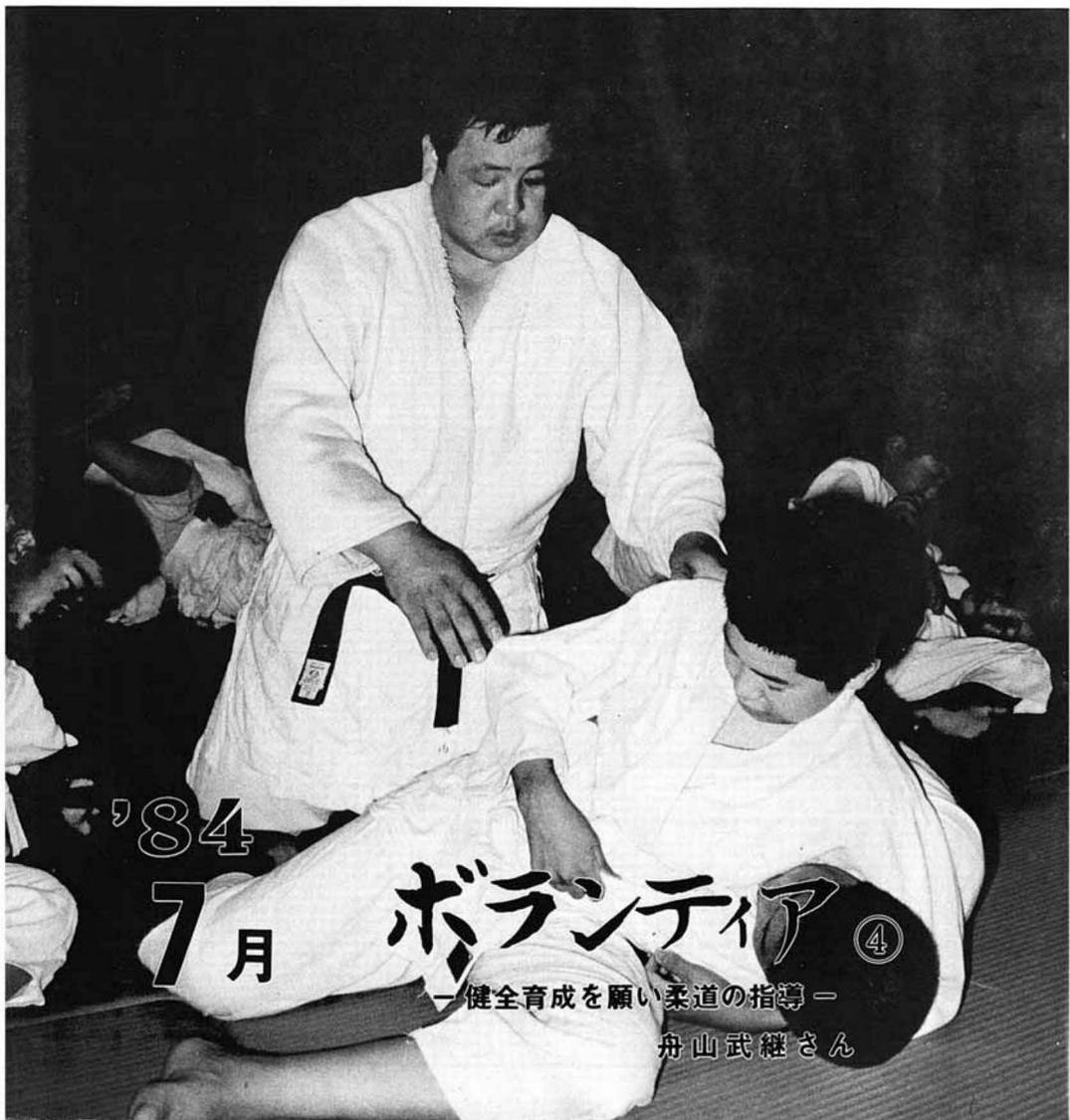
7月

ボランティア

④

—健全育成を願い柔道の指導—

舟山武継さん



少年を健やかに

青少年健全育成県民総ぐるみ運動

運動目標	実践内容
4. 声かけあって子どもの事故をなくしましょう。	(1)交通事故の防止
	(2)水の事故防止
	(3)危険箇所の点検
	(4)花火の事故防止
	(5)遊び場の点検



運動目標	実践内容
5. みんなの力で青少年の非行をなくしましょう。	(1)不健全なたまり場の解消
	(2)少年の万引き防止
	(3)未成年者の飲酒、喫煙の禁止、シンナー・接着剤等薬物乱用の防止
	(4)青少年の性非行の防止
	(5)暴走グループの根絶



▲賞状を手にした佐久間正敏くん

**ユネスコ世界
児童画展で特賞**

第十六回ユネスコ世界児童画展が東京都児童会館で開催され、「つり」を出品した佐久間正敏くん（藤田小四年）が、見事、特賞に輝きました。

この児童画展には、外国から三万二千五百五十点、日本から四千八百点が応募し、外国、日本とも、それぞれ百二十五点ずつが入選しました。

また、「柿取り」を出品した遠藤崇くん（藤田小三年）も入選しました。

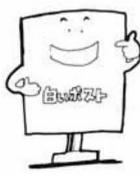
指導をしている石原晃雲さんは、「つりの楽しさが、画面いっぱいに感じられます。魚の表情も良く描けています。全体の色調もなかなか見事なものです」と語っていました。

地域ぐるみで青

7月1日～8月31日

未来を担う青少年が、心身ともに健やかに成長することは、県民すべての願いです。このためには家庭、学校、地域社会および行政機関が、それぞれの役割を十分認識し、互いに協力しあって青少年の健全育成を推進していく必要があります。

この運動は、こうした共通の理解と認識のもとに、青少年が心身ともに健康な夏をおくれるよう、関係機関、関係団体、地域住民などがそれぞれ実施する青少年育成と非行防止のための諸活動を、有機的に連携づけ、これを集中的に実施し推進するものです。

運動目標	実践内容
2. 地域ぐるみで青少年の社会参加を進めましょう。 	(1) 地域ぐるみ環境浄化活動（最重点実践項目） (2) 団体・グループ活動の奨励 (3) 自主性を生かした活動 (4) 勵青少年の活動 (5) 指導者の養成と確保
3. 力を合わせて明るい地域づくりをしましょう。 	(1) 地域社会の雰囲気づくり活動の推進 (2) 社会環境を良くする活動 (3) 遊びの「場」の提供

運動目標	実践内容
1. 家族みんなで明るい家庭をつくりましょう。 	(1) 健全な明るい家庭づくりをしよう。 (2) 家庭での体験 (3) 家庭レクリエーション (4) 良い本の推奨 (5) 芸術鑑賞の機会の提供



▲石原さんと蓬田知展くん

元展日伊合同 児童画展で特選

元展第十三回日伊合同児童画展が大阪市立美術館で開かれ、「お面」を出品した蓬田知展くん（藤田小六年）が、特選に輝きました。

また、「思いつきの佐藤稚子ちゃん（森江野小一年）、「虫取り」の鈴木賢二くん（森江野小一年）、「体育」の佐久間正敏くん（藤田小四年）は、それぞれ入選しました。

指導をしている石原晃雲さんは、蓬田くんの作品について、「すばらしい構成です。お面をかぶった人物がいきいきと表現されています。ひねった体、空間をたつぷりとつた効果など、さすがが素晴らしい作品です。踊る手などおかしなところもありますが、そんなことは気にならないほど、明快で力強い作品です」と語っていました。

クリーン・アップ作戦



▲部落総出の清掃作業



▲集められたゴミの山

毎年七月一日から三十一日までの一か月間は、河川愛護月間です。
 福島県では、毎年七月一日に県下一斉の河川美化作業を実施しています。
 町では、七月一日午前六時から、佐藤善右工門町長をはじめ各地区の保健委員会、河川愛護団体の方々など、約二百三十名の人たちが、塚野目・徳江の普蔵川、山崎・森山の滝川、貝田・大木戸の牛沢川の三河川を重点に、クリーン・アップ作戦を展開しました。
 何げなく捨てたアキカンでも、ちりも積もれば山となる。のことわざどおり、最終的には、河川の美化を損なうものになってしまいます。
 この日集まったアキカンやビンなどのゴミは、燃えるゴミニトン、燃えないゴミ三トンというものすごい量でした。
 きれいな河川をとりもどすため、私たち一人ひとりがマナーを守って、ゴミなどを捨てないようにしましょう。

身近にある野草・薬草

①

ドクダミ

今回から、私たちの身近にある野草・薬草を、シリーズで紹介いたします。第一回は、ドクダミです。

初夏につける花（実は葉の変形）は清楚ですが、独特においがします。薬効が多いところから「十薬」の別名があります。四枚の白い花弁のように見えるのは、実は葉に近い性質の苞で、真の花は中央に棒のように伸びた花茎の周囲に、花弁もがく片もなく、雌しべ、雄しべだけを持った小さな花が密生しています。黄色に見えるのは、雄しべの先端の葯（花粉粒の袋）です。

繁殖力が旺盛なのは、地下の細長い白色根茎の分裂によるほか、淡褐色の微細な種子にもよるものです。

▼薬用▲
 五～六月の花が咲いている時



期に、根も含めた全草を採取し日干しに。生の葉は必要時につみとります。

新鮮な生の葉を水洗いし、遠火の火にあぶり、やわらかくなったら、はれもの大きさに折って患部に当て、絆創膏で止めておくと、うみを吸い出し、はれもひきます。

利尿・便通・高血圧予防に
 乾燥した葉（十薬）二十～三十グラム、葱（ハトムギ）の乾燥果実（十薬）十グラムを煎じ、お茶がわりに飲みます。

また、ドクダミをどこどころに穴をあけたビニール袋に入れて、そのまま冷蔵庫に入れておくと、防臭剤の代用になります。コップにさしたまま、冷蔵庫の隅に入れておいてもいいです。

山野草カラー百科から

ふるさとの文化財 ④

国史跡 石母田供養石塔

菊池利雄

往生できるというのがその大意で、鎌倉時代の仏教思想を示す貴重な遺物である。

一山一家をはじめ、元の開闢として疑われ、伊豆の修善寺に幽閉されるが許されて、鎌倉幕府の執権北条貞時の帰依をうけた建長寺、円覚寺などに住した。のち後宇多上皇の請により、入洛南禅寺主となり、文保元年（一三一七）七十一歳で死去している。

石母田字中ノ内経沢川のほとりに、国の指定史跡「石母田供養石塔」があり、地元では俗に「蒙古の碑」と呼ばれている。碑文は、文永・弘安の役に大敗した元が、その後も日本の征服をあきらめず、正安元年（一二九九）勅降使として来日し、のちに帰化した、高僧一山一家の書として有名である。碑は、高さが一・八m、幅四十五cmの不整形な方柱で、上部には、梵字のウーン（阿彌如来）、その下に六行百五十四字の供養文が刻されている。

地元の出身とみられる僧知宣が、徳治三年（この年改元）（一三二〇）十一月二十日、親の百ヶ日の追善供養に、塔婆を建立する功德の由来を述べたもので、塔婆を見るものは苦境をまぬがれ、作るものは必ず極楽浄土に

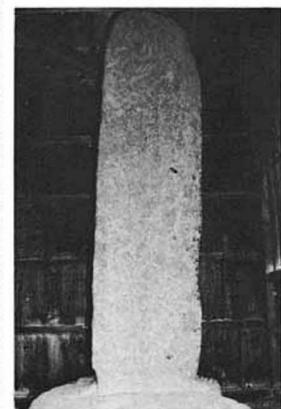
往生できるというのがその大意で、鎌倉時代の仏教思想を示す貴重な遺物である。

一山一家をはじめ、元の開闢として疑われ、伊豆の修善寺に幽閉されるが許されて、鎌倉幕府の執権北条貞時の帰依をうけた建長寺、円覚寺などに住した。のち後宇多上皇の請により、入洛南禅寺主となり、文保元年（一三一七）七十一歳で死去している。

一山は、博学朱子学に長じ、書家としても著名で、石母田供養石塔を書いた前年の徳治二年には、松島の「頼賢の碑」の碑文を書いている。

鎌倉から室町時代にかけて、この供養塔の付近には、満福寺という古刹があったといわれ、現在山形市の山寺立石寺に秘藏されている、大般若波羅密多経の奥書きに、伊達郡小手母田満福寺とあることからも知られる。

戦国期における伊達氏の内紛天文の乱においては、満福寺は伊達植宗に味方したことか



ら寺領は伊達晴宗によって召し上げられて、石母田肥前守に下賜されたため、廃寺への道をたどったものとみられる。

福島市の瀬上にある台蔵寺には、享和三年（一八〇三）にこの碑文を模刻したものが伝来しており、このころより石塔は倒伏し、久しく土中にあつたが、明治十年ごろ付近に住む松浦某が、畑地の耕作中に、埋もれていた石塔を発見した。

村人たちはこれを掘り起こし、龍雲寺に運んで境内に安置したが、昭和十年六月国の史跡指定に伴ない、石塔は、再び元の場所に移し返されている。

昭和三十六年三月、供養石塔に覆堂が建てられ、標柱や案内板なども設置されて保存がなされ現在に至っている。

参考文献 国史跡一三三四巻 福島県の文化財

■表紙 カメラ歳時記 ④ 「ボラントイア」

健全育成を願い 柔道の指導



道選手権大会個人一般の部で堂々三位、また団体ではみごと優勝しました。

「最近、非行の低年齢化が進み問題となつていますが、柔道をしていっている子には、そんな子はいません。礼に始まり礼に終る」を徹底して指導していますので、すなおでのびのびと育つてくれます。」と舟山さん。

「子どもたちに柔道の指導をしてきて十五年になりました。父兄の方から、自分の子どもが礼儀正しくなった、とよくいわれるんです。そんなとき、柔道をやっているとほんとうによかつたなあと思いますね。」と話す舟山武蔵さん（山崎字耕谷一の二二・三十五歳）。

毎週火曜日、町民体育館で練習に励む柔道スポーツ少年団（小学生から高校生まで団員八十名）の指導者です。

舟山さんは、柔道三段で、昨年十月に行われた第一回伊達柔



食中毒を 防止しよう!!



食べ物は、生命を維持し、健康の増進をはかるために、なくてはならないもので、健康で快適な生活を送るには、いろいろな食品をバランス良く摂るとともに、食べ物の衛生を保つことが必要です。

食べ物が、非衛生的だと、食べ物本来の働きとは逆の作用、つまり、食中毒や伝染病の原因となり、健康を損なうこととなります。

このため、保健所では、食品衛生思想の普及に努め、食品製造業者や販売業者に対しては、食品衛生講習会を開催したり、施設の指導と監視を厳重に行っています。

保原保健所管内では、昭和五十二年以降は、営業者が原因

となった食中毒は一件も発生していません。

しかしながら、本県内では、昭和五十八年には六月から十月の高温多湿の時期を中心にして、合計二十五件の食中毒が発生し、患者数は六百九十五名に達しています。このうち、家庭で作られた飲食物が原因であったものが三件十二名、患者数十二名でした。

この様な状況から、健康な生活を過ごすためには、食品営業者もとり、広く一般家庭においまでも、食品衛生知識の向上が望まれるものです。

そのため、全国的に毎年八月の初めの一週間を「食品衛生週間」と定めて、食品衛生向上のため、さまざまな行事を実施しています。

今年も、八月六日から十二日までの一週間であり、保原保健所では、国見町を会場として、次の事業を行う予定になっています。

- 一、一日食品衛生監視員
- 二、消費者の代表者を一日食品衛生監視員に委嘱し、食品営業施設の監視を実施する。
- 三、食品衛生懇談会

消費者代表・食品業界代表行政の三者による食品衛生についての懇談会を実施す

る。

シートベルトは 必ず着用しましょう



七月一日から八月三十一日まで「全国一斉シートベルト着用強化の日」が実施されます。

昨年の交通事故による死者数は、全国で九千五百二十八人で、前年比六九％増と、前年を大きく上回る結果となっています。

ところで、自動車乗車中の、死者の損傷主部位を見ると、頭部をはじめとする上半身の負傷が圧倒的に多くなっています。これらは、フロントガラスに頭部を突っ込む、あるいは、衝突の衝撃で身体を車内のどこかにぶつけて損傷を受ける、というものが大部分であるといえます。

また、自動車乗車中の死者数の九八％がシートベルト非着用（装備なしを含む）となっており、見逃すことのできる重要な事実です。

この大半は、シートベルトを着用していれば助かることのできた事故かも知れません。着用率について調査したところ、県内平均が三三％ですが、

当桑折署管内は二二％と低い状態にあります。

このような状況下において、運転手自身の今一番必要なのは、「自分で自分を守る」こと、すなわち、シートベルトの着用が最も簡便で、かつ効果的な被害軽減策といえます。

このシートベルト着用強化期間中、特に七月一日、十六日、三十一日、八月十日、三十日を重点日と指定し、運動が展開されます。

「面倒だから」「窮屈だから」「わずらわしい」といった拒否反応を改め、自分の命は自分で守るんだという自覚を持ち、シートベルト着用をすることが、自動車運転者のマナーと考えることが必要です。

この機会に、是非、シートベルトの着用を習慣づけ、同乗者も必ず着用するようにしましょう。

中小企業向け 中元融資のおしらせ



国民金融公庫福島支店では、ただいま中小企業向け中元融資を、左記要領により取扱っています。

ます。

- 一、申込資格 資本金一千万円以下または従業員百人以下（商業・サービス業の場合は五十人以下）の法人または個人業者
- 二、融資額 運転・設備資金二百万円以内
- 三、融資期間 五年以内
- 四、設備資金 七年以内
- 五、利率 年七・九％

このほか、業種、使途などによつて、三千五百万円までご利用いただける制度もあります。ご利用には、国民金融公庫福島支店 融資相談係（☎二三三三四）へおたずねください。

花火をほぐすのはよそう

花火の中に入っているのは、強い力をもっている火薬です。わずかなまじつや熱で爆発することがあります。昨年起こった事故にも、爆竹やモデルガン用の平玉などに使われている火薬をほぐし、プラスチックケースなどに詰め込んでいるうちに爆発した、という例がたくさんあります。事故を起こした人はもちろん重傷です。花火をほぐすのはやめましょう。

公民館だより

国見町公民館
☎85-2676
(有)4156

少年仲間づくり教室開講

六月十日午前九時から公民館で開講式が行われました。

この教室は、単位子ども会のリーダー養成が目的で来年二月までゲームや野外活動などを通して仲間づくりの学習をします。

この日小学五年生四十七名が父兄とともに出席し、教育長、



▲ゲームを楽しむ子どもたち

小坂小迎校長先生のあいさつのであち、下山政一清水小学校長先生から、「子ども会活動とリーダーの役割」についてお話を聞きました。

そのあと、「サークルばけつと」の指導のもと、ゲームを楽しく行い第一回目の学習を終えました。

今後の主な学習予定は、七月下旬 キャンプ研修会、八月 座禅入門、九月 史跡めぐりウォーク・ラリー、十月 町内清掃、十二月 タコあげ、一月 雪あそび

優勝

家庭バレーリーグ(前期) 小坂チーム

町家庭バレー部(十四チーム)主催の前期リーグ戦が六月六日から会場を体育センター、町民体育館で週二回、夜間行われました。

参加十チームがAブロック、



▲よろこびの小坂チーム

Bブロックに分かれ上位それぞれ二チームが決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメントは二十八日町民体育館で小坂宮町、石母田、山崎の四チームの間で行われ、常勝宮町チームを破った小坂チームが悲願の優勝を遂げました。

結果は左のとおり(決勝トーナメント)
小坂2-0山崎
宮町2-0石母田
小坂2-0宮町

なご表彰とリーグ戦の反省を兼ねた懇談会が七月五日公民館で開かれ今後のバレー部の在り方、運営について、活発な話し合いが行われ大いに親睦が深められました。

文化団体紹介

国見町ジャズダンス愛好会

代表 谷津陽子

毎週火曜日、七時三十分になると公民館二階講堂で「おはようございます」というあいさつが交わされます。やがて、ワントゥ・スリー・フォーとカウントをとる声、音楽がはじまり、メンバーは、それにあわせて、ブリエ、ルベなど、指示されたように身体を動かします。音楽にあわせて動かすのは意外に難かしく、手があがれば足が動かず、足が動けば背中が曲がるというふうで、全身に神経をいきたわらせて動くことはなかなかできません。それではレッスンの終りには、先生の簡単な振付で踊るのですが、下手は下手なりに、充分楽しく、また、先生の踊りを見て少しでも近づきたいと意欲を燃やします。

この愛好会は昭和五十七年、二度の町民学校での開講を基に誕生し、やっと二年目にはいったところです。メンバーの年齢も上は四十代、下は高校生と幅があり、それによって目的も個々異なる様ですが、背すじを伸ばしキチンと立つことができるようになるだけでも、健康や美容に良いといえると思います。今年の五月には、福島パイオレットダンスシングメンバーズ公演にも五名のメンバーが出演し、舞台上立つことの面白さも、知ったようです。

ジャズダンスやジャズダンス、エアロビクスなど、いま、大流行ですが、そういう時流に流されないジャズダンス愛好会でありたいと考えています。なお、これからでもやっていたいとお考えの方は、ぜひ一度練習日に公民館においでください。



奉仕作業で

汗を流す

高齢者教室

去る六月十五日、午前九時から、文化財の古民家周辺の除草と清掃を実施した。

学級生八十四名が参加し、文化財の保護のために、真剣に汗を流しながら奉仕してくれました。

雑草が伸び、見るかげもなかった古民家が、学級生の手早い作業により、またたく間に除草され、周辺のゴミなども整理され、見違えるようにきれいになり、文化財の価値が一段と高まったような感じがします。

熟練された手腕と真剣な作業ぶりに只々驚嘆するばかりでした。



▲古民家の周辺を清掃

終了後、教育についての学習で、小坂小学校の迎校長先生を講師として

・現在の教育について

・現在のの子供の長所短所

・短所是正のために高齢者としてできること

について学習し孫たちの教育について理解を深めました。

七月の学習予定

七月二十日(金)

午後一時三十分から、公民館で、社会福祉協議会副会長 磯貝 博先生を講師として

「社会福祉」についての学習をします。

成人学級

六月の学習から

去る六月十八日、白河、棚倉方面の文化財、史跡見学ということで研修旅行が実施されました。

白河小峰城跡、白河バラ園、白河歴史民俗資料館、南湖神社及松平定信が愛した蘿月庵、白河の関跡、棚倉の馬場都々古別神社、山本不動尊、乙字ヶ滝などを見学、参拝をし、有意義な一日をすごしました。

六月二十九日 家庭教育研究会、教育相談主任、五十嵐秀夫先生を講師として、学習を実施

しました。

「大人は次の世代に何を残せるか」というテーマで講義を聞き、話しあいをし、大人の責任について勉強しました。

家庭での子供へのしつけは大人として大切な務めであり、それにより生活習慣、生活のリズムを体得した子供は自然と意欲を持ち、集中持続ができ、自分で整理、整頓をし、己にかつこができるようになる。

このよう話をしながら、考えさせられる面が多く有意義な学習でした。

七月の学習予定

講義

「社会福祉の現状と今後の問題について」

講師 県社会福祉協議会 副会長 磯貝 博先生

町民学校

各教室一斉に開講

公民館では、昭和五十九年度前期町民学校として四コースを設定し、このたび各コースとも上記のとおり開講しました。

◇山水画教室は六月二十七日午後七時三十分、生徒数十九名

◇軟式テニス教室は六月二十九日午後一時三十分、生徒

数二十四名

◇短歌教室は七月二日午後七時三十分、生徒数二十名

◇料理教室は七月七日午後一時三十分、生徒数二十四名



▲テニス教室風景

歌謡発表会の お知らせ

第一回国見歌謡クラブ歌謡ショー(発表会)を開催いたします。夏の一夜、納涼がてら皆様お誘い合せの上お出かけ下さい。

○日時 八月二十五日(土) 午後七時

- 会場 町民福祉センター
- 入場料 四〇〇円
- 主催 七月月中旬から前売り
- 連絡先 国見歌謡クラブ 大波利雄

八五―四二二〇

なお当日、特別ゲストにコロムビアレコードの演歌歌手「志賀しずい」さんを迎えています。

「ヨガ」クラブへの お誘い

お誘い

美容と健康のため現代ヨガクラブへおはりになりません。今、クラブでは子供から高齢者の方まで和氣あいあいのうちにヨガを楽しんでおります。

完全なポーズは出来なくても、それなりに出来ますのでお気軽にお出かけ下さい。身体の中からリフレッシュ出来ます。

- 練習日 毎週水曜日(月四回)
- 時間 午後七時半―九時
- 場所 公民館
- 会費 月一〇〇〇円
- 連絡先 芳賀ミチ子(八五―四三三五) 菊池 澄子(八五―三六八九)

県民スポーツ大会

町代表決まる

- ◇壮年ソフトボール、山崎チーム
- ◇家庭バレーボール、宮町チーム
- ◇卓球、滝川チーム
- ◇バドミントン、バドミントンクラブ

わ
だ
い



鈴木さんが

写真集を寄贈

藤田駅前写真店を営む鈴木重男さんは、このほど、写真集『ふくしまの山河』を自費出版、完成を記念し、町に十冊寄贈してくださいました。

『ふくしまの山河』は、鈴木さんが十五年の歳月をかけ、県内の美しい自然、特に山と河を撮影したもので、カラー写真百五十七点を使った豪華版です。

鈴木さんは、全国でも著名な写真家ですが、「自分の本を一冊残したいということ、古いよい自然があるのを知ってもらいたい、美しいふるさとの自然を残したい」と思い、この本を作りました。」と話してくれました。

町では、寄贈していただいた写真集を、藤田・小坂・森江野・大木戸・大枝の各小学校と県北中学校、公民館などに備えつけ、役立たせることにしました。

なお、この写真集は、一冊四千八百円で、鈴木写真商会をはじめ、県内有名書店で販売中ですので、ご希望の方はお買い求めください。



▲渡部助役に写真集を寄贈した鈴木さん

文化財案内板が

おめみえ

町教育委員会では、国見町の文化財を広く町民のみならず、知っていただくため、このほど、四十五万円をかけ、木の枠にアルミ板の案内板を、公民館前に設置しました。

町には、石母田供養石塔、阿津賀志山防塁跡の国の史跡をは

じめ、県重要文化財の旧佐藤家住宅、県の指定史跡の塚野目第一号墳(八幡塚古墳)など、たぐさんの文化財があり、まさに、歴史と文化財の町といえます。

これらの貴重な文化財は、たくさんの方々の保護によって現在まで残ったものです。私たちも、保護に努め、後世に残さなければなりません。この機会に、身近にある文化財に、興味を持つてみてはいかがでしょうか。



▲完成した案内板

モリアオガエルが

産卵

町内で唯一のモリアオガエル



▲産みつけられた卵塊

の生息地である馬頭山内蛇沼に、今年もたくさんのモリアオガエルが産卵しています。むせかえるような草いきれの中、渾木に囲まれた蛇沼は、神秘的な色をたたえて澄みかえっていました。

沼辺の小さな葉陰に産みつけられた卵塊のほとんどはオタマジャクシにかえっていましたが、それでも、遅く産みつけられた卵塊も見られました。

これらの卵塊も、やがてオタマジャクシとなることでしよう。モリアオガエル特有の、かん高い鳴声が涼風を誘ってくれるようでした。保護に努めたいものです。

○先日、モリアオガエルの取材に行きましても澄んでいて、さわやかな汗をかきこができました。近年、森林浴がブームとなっていますが、町内には、町営牧場や阿津賀志山など、森林浴にはもってこいの場所が数多くあります。健康のためにも、出かけてみてはいかがでしょうか。

○七月に入り、真夏日が続いたと思つたら、今度は梅雨どき特有の冷雨。温度差が大きき、体調をくずしがちですが、十分注意したいものです。

編集日記

～国見町民憲章～

- 1.あたたかく、たすけあう町をつくりましょう。
- 1.楽しく働いて、豊かな町をつくりましょう。
- 1.すこやかで、よろこびに生きる町をつくりましょう。
- 1.力をあわせて、すがすがしい町をつくりましょう。
- 1.教育と文化を高め、希望にみちた町をつくりましょう。